

(別添2)

No.	31-01
策定年月	令和3年5月
見直し年月	令和〇年〇月

麦・大豆産地生産性向上計画 北栄産地 (作成主体:北栄町農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

北栄町は県内でも農業の盛んな地域であり、丘陵地帯の黒ぼく畑、海岸沿いの砂丘畑に囲まれるように1,000haの水田地帯が広がっている。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、飼料用米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、麦の生産維持・大豆の生産拡大を図る必要がある。

現在、生産している品種は実需から評価をいただいているものの、近年、続発する自然災害の影響で収量・品質が不安定になっている。収量・品質の安定に向けて、個々の集落内での取組及び団地化に留まらず、集落を跨いだ効率的作業を可能とする生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく。

現在、北栄町においては、北栄町農業振興基本計画により各種の事業を活用しつつ水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

麦については、JA鳥取中央管内の倉吉市及び本町が中心となり生産している二条大麦品種「しゅんれい」は、75トンがビール用として、約250トンが麦茶用として県外企業に販売されている。過去2ヶ年の豊作により西日本では供給過剰となっているものの、実需者からは現状維持が求められている。近年、倉吉市での作付面積が減少傾向にあるため、本町と合わせてJA鳥取中央として安定供給を図る。

大豆については、大半を品種サチュタカが占め、県内・中国地方を中心に豆腐・味噌企業に向けて販売されている。本県産大豆の供給量が減少傾向にある中、本町産大豆のウエイトは相対的に高まっており、安定供給が求められている。

(2) 生産における現状と課題

本町は、県内有数の農業地帯であり、スイカ・ナガイモ・らっきょう・ぶどう等の労働集約型農業が盛んである。一方、水田農業では各集落営農組織が中心となり、稲・麦・大豆の取組を行ってきた。近年、作付面積は麦については横ばい、大豆については減少傾向で推移している。基本技術を徹底することで、それぞれの単収は県平均を上回ってきたものの、近年は収量が安定していない。

単収低下の原因として、作付頻度の増加による地力低下が考えられ、収量を向上させるためには、土壌診断に基づいた地力の回復、酸度矯正、施肥や土壌改良資材の施用等の実施が課題となっている。

また、近年の自然災害による冠水や排水不良も単収低下の大きな要因となっており、速やかな排水のためには、集落毎の取組から集落をまたがった団地化や集約化が重要となっている。

さらに、近年は畑地での施設園芸の拡大に伴い、水田の集落営農組織への農地の集約が進んでおり、安定的な収量・品質の確保のために効率的な適期作業の実施が課題となっている。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
二条大麦	しゅんれい	30.9	29.1	31.5	263.5	445.9	377.0	81.6	130.1	118.7
作物計		30.9	29.1	31.5	263.5	445.9	377.0	81.6	130.1	118.7

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
大豆	サチユタカ タマホマレ	35.1	33.5	35.5	125.2	229.5	135.1	43.9	77.0	48.0
作物計		35.1	33.5	35.5	125.2	229.5	135.1	43.9	77.0	48.0

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
二条大麦	しゅんれい					27.1	86.0%	
作物計		0	#DIV/0!	0	#DIV/0!	27.1	86.0%	

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	サチユタカ タマホマレ					30.5	85.9%	
作物計		0	#DIV/0!	0	0.0%	30.5	85.9%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

・団地の基準等は都道府県計画と同様。
 ・団地化率＝団地化を推進する上でのまとまりのある地域(特定集落)の団地化面積／団地化を推進する上でのまとまりのある地域(特定集落)の麦(もしくは大豆)の作付面積

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。